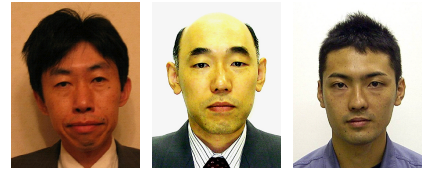


スマートウェイ2007

—最先端のITSサービスの実現—



高度情報化研究センター

高度道路交通システム研究室 室長 平井 節生 主任研究官 畠中 秀人 研究官 真部 泰幸

1. はじめに

VICSやETC等の既存サービスに加え、先進的なITS技術を用いて多様なサービスを組み込んだ次世代の道路「スマートウェイ」の開発及び推進に取り組んでいる。

2004年8月、スマートウェイ推進会議の提言「ITS、セカンドステージへ～スマートなモビリティ社会の実現～」に、2007年に本格的なITS社会を実現すべきであるとの方針が示され、現在、新たなITSサービスの開発とそれらを一つの車載器で利用できるシステムの実施を急いでいる。

国土交通省国土技術政策総合研究所の近年の取り組みとして、上記提言を実現する車載器及び路側機を検討するため、2005年2月から2006年3月までの約1年間、民間企業23社と官民共同研究を実施

した。そして、2007年5月より、首都高速道路の実道環境において民間企業30社と検討した機器設備を用いて、次世代道路サービス提供システムに関する公道実験を実施している。また、2007年10月、その成果発表の場として「スマートウェイ2007デモ」を実施し、研究成果を広く公開した。

2. 公道実験の取り組み

本公道実験は、開発した路側設備、車載器を用いて、実道環境下でのシステム機能、サービスの有効性・受容性を検証することを目的とし、VICS、ETCの既存サービスに加え、新たな公共サービスを提供するインフラ設備を首都高速道路上に設置した(図-1)。また、車載器は、カーナビと連携して音声と画像により情報提供を行う「カーナビ連

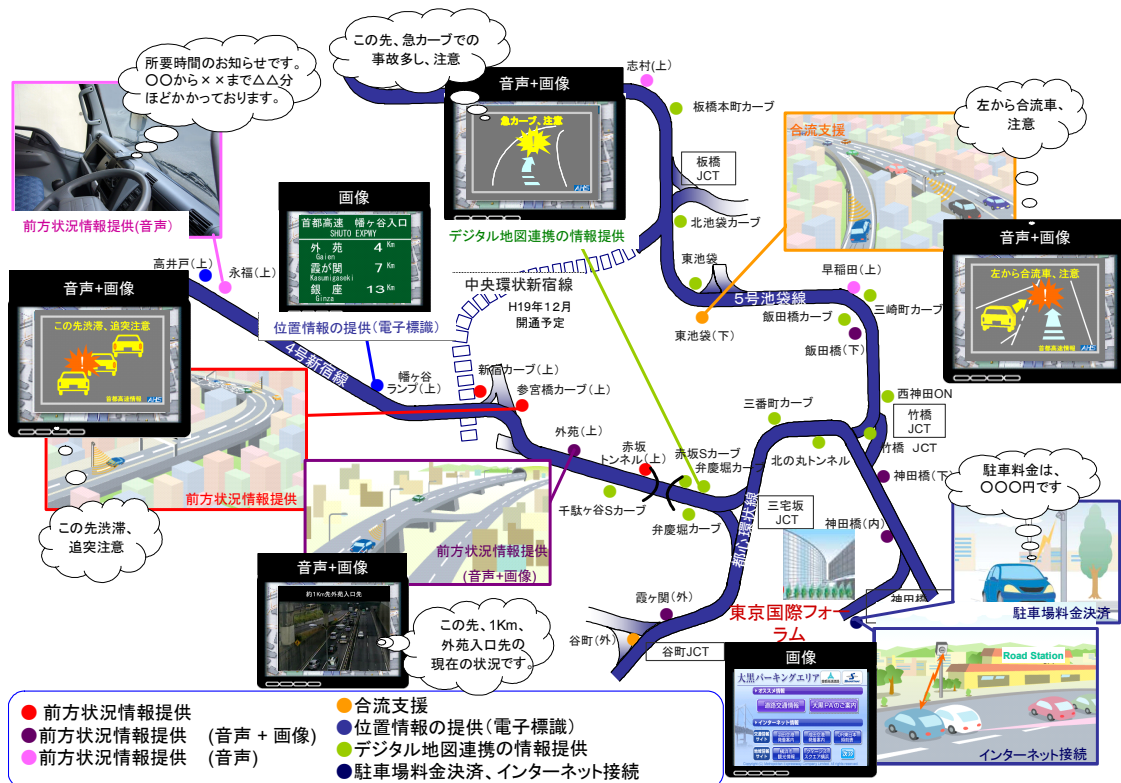


図-1 インフラ設備箇所とサービスイメージ

携型ITS車載器」と、カーナビ無し的大型車や軽自動車等を想定して音声のみの情報提供を行う「単体型ITS車載器」を開発し、全てのサービスを一つの車載器で享受できる車内環境を実現した。公道実験には、自動車メーカー11社、車載器・電機メーカー19社が参加し、車両台数40台、総走行回数2522回（2007年12月末時点）を数える走行により、システムの機能・性能の観点、ドライバへの有効性・受容性の観点で確認を行っている。

公道実験により、システムの機能・性能の検証では、センサ、提供系、車載器ともに有効に機能する事が確認された。また、ドライバへの有効性・受容性の検証では、概ねサービス提供の目的とする効果が得られることが確認されるとともに、アンケートによりドライバの受容性が高いとの結果も得られた。

3. スマートウェイ2007デモ

公道実験によって得られた成果発表の場として、「スマートウェイ2007デモ」を10月14日から17日の4日間（14日は報道機関向けプレ公開）で実施し、研究・開発の成果を広く公開した（図-2、3）。

実施内容は、公道実験の設備を用いて実際のサービスを体験して頂く体験乗車とともに、機器の展示やシンポジウムを行った。体験乗車では、一般から募集した約640名の方々に体験して頂き、車両に乗って実道でサービスを体験出来たことに大変な好評を頂いた。デモ参加者からのアンケート

では、今回提供したサービス全体の評価として「役に立つ」、「どちらかといえば役に立つ」という肯定的な意見を約9割の方からいただいた。

4. 今後の展開

今回の公道実験により、システムの機能・性能、及びドライバに対する有効性・受容性が評価でき、「スマートウェイ2007デモ」により、その利便性について実感していただいた。

今後、首都高速道路上の公道実験及びデモにおけるサービス箇所については、デモの後もサービス提供を継続していく。また、実施箇所を増やしながらサービス内容のブラッシュアップ及び評価検証を重ねていく。2008年度には、安全運転支援システムに関する関係省庁合同の大規模実道実験が予定されている。さらに、近畿圏、中部圏等においても実証実験を開始する等新たな展開を予定しており、東京に続いて大都市圏や各地に広くサービスを展開してゆきたい。

【参考文献】

「スマートウェイ2007」紹介

http://www.smartway2007.jp/index_j.htm

「スマートウェイ2007デモ」の実施報告

<http://www.mlit.go.jp/road/ITS/j-html/index.html>



図-2 体験乗車風景（出発式）



図-3 展示会風景